

板橋 松永記念館周辺

明治の佇まいを今に残す板橋界隈。松永記念館は、明治、大正、昭和を生き、日本の「電力王」と呼ばれ茶人^{じやうじん}耳庵としても知られた松永安左衛門が晩年を過ごしたところです。

松永記念館、老櫓荘
日本の「電力王」といわれ、実業界で活躍をした松永安左衛門が自宅の敷地内に建設したもの。老櫓荘(国登録有形文化財)は、松永が晩年過ごした所で、茶室等の意匠をこらした近代数寄屋建築。庭園は「日本の歴史公園100選」に選定されている。
開館時間 9:00~17:00
休館日 年末年始
入場料 無料 茶室利用は有料(事前申込制)

香林寺
曹洞宗小田原三寺の一つにあげられる古刹で、北条氏綱夫人の開基といわれる。また、久野の総世寺とともに早川の宝珠山海蔵寺の末寺である。

皆春荘
元首相・清浦奎吾が明治の末に建て、その後、山縣有朋が古稀庵の別庵として使用したという数寄屋風の建物。かつては庭越しに見える相模湾の風景が大変素晴らしいものであったといわれている。(公開していません)

伝肇寺
大正7年(1918)から8年間、詩人北原白秋が境内に「木兎の家」を建てて住み、詩・短歌・俳句・童謡と多彩な文芸活動を展開した。本堂横には「美しい鳥小鳥」の碑がある。

山月
実業家・大倉喜八郎が、大正9年(1920)に建てた別荘「共壽亭」で、関東大震災でも倒壊しなかった貴重な建物。各部屋の天井、欄間・建具類など造作の凝った造りで、現在は割烹旅館として使用されている。

玉伝寺
昔から道中葉・常備葉の「ういろう」で知られる外郎(ういろう)家の祖である宇野藤右衛門定治が開基した寺。寺内には外郎家代々の墓がある。

古稀庵
明治の元勳、山縣有朋が、明治40年(1907)、70歳のときに構えた別荘。現在は保険会社の研修所になっており、毎週日曜日には庭園が一般公開されている。(有料)

居神社
戦国時代初期の名族三浦荒次郎義意と木花咲耶姫命を祭神とする板橋と山角町の氏神様。境内には、鎌倉時代末期の念仏供養碑の古碑群がある。

秋葉山量覚院
慶長元年(1596)に、小田原城主大久保忠世が信仰していた遠州の秋葉山大権現を勧請したもの。毎年12月6日に火防祭があり、諸儀式の後、燗火になった上を、素足のまま踏み渡る火渡りが行われる。

宗福院(板橋地藏尊)
宗福院の地藏尊は「板橋のお地藏さん」として親しまれている。新仏の供養に3年間続けて参詣するという風習があり、毎年1月と8月の23・24日の縁日には、大勢の参拝者でにぎわう。

光円寺
古くは実相寺という号で、寛永年間(1624~1643)に春日局が開基した。明暦年間(1655~1657)に現在の光円寺と改められたといわれている。国道沿いに大きな銀杏の木があり「見附の大イチョウ」としても知られている。

大久寺
小田原城主大久保忠世を開基とする大久保家の菩提寺で、日蓮宗の寺。寺内墓所には忠世をはじめ大久保氏一族の墓地がある。

小田原用水取入口
小田原用水は、箱根芦ノ湖を源とする早川の水をこの地で取り入れ、旧東海道に沿って城内へ流した上水道で、後北条時代に造られたものである。形態は変わったが、現在でも用水の取入口が残っている。

